

令和3年度1学期終業式



校長式辞要旨

・コロナ禍の収束のきざしが見えない中、行事や学校生活で生徒諸君には引き続き不便をかけるが、感染防止のために全員で協力して乗り切ってもらいたい。

・校則の見直しについて生徒会から申し入れや提案があった。生徒指導部の職員を中心に生徒会と対話を続けている最中である。携帯電話の校内での使用について、直接校長室に来て意見を言ってくれる生徒もいた。

自らの意見を外部に表明するという姿勢は、とても大切なことである。自分たちの学校のことを自分ごととしてとらえ、真剣に考えてくれている姿勢は喜ばしい。

よりよいルール作りのために今後も生徒諸君の知恵を借りたい。

・地域の方々から本校生についてお褒めの言葉やお叱りの言葉をたくさん受ける。

「男女の正しい付き合い方」「公共の場所でのふるまい」「バス内での行動」などについてご指摘を受けることが多い。

我が国におけるマナーの源流は、儒教的価値観の上に成り立っている。「論語」「大学」「中庸」「孟子」の四書、「詩経」「書経」「易経」「礼記」「春秋」の五経の中にその答えが詰まっている。

3年後に1万円札の柄になることが決まっている明治初期の実業家渋沢栄一氏は「論語とそろばん」を重視した。儒教的価値観を重視したということである。

アメリカの人類学者ルースベネディクトは著書「菊と刀」の中で、欧米が「罪の文化」であるのに対して、日本の文化は「恥の文化」と述べている。

「美しく生きる」とはどういうことであるのか。「恥ずかしくないふるまい」とはどのようなものなのかを先人が積み上げてきた文化の中から知らねばならない。

本校生徒に対しては「美しく生きよう」と声を大にして言いたい。

・長い生涯の中で高校生の夏休みというのは短いがとても貴重な時間である。ボランティア活動や読書、スポーツ等、普段できない体験に大いに取り組んで欲しい。

生徒指導部長訓話より

・夏休み中は規則正しい生活を送ろう。

・夏休みを有意義に過ごすために計画を立てましょう。

資格・検定の勉強、様々な体験活動、ボランティア等社会のルールを学ぶ機会や、部活動などで心身を鍛える機会にしてください。

・バイクには乗らない、バイクを買わせない、免許を取らない、3ない運動を守りましょう。

・アルバイトは許可制ですが、あくまでも学業優先です。

